

近年を振り返ると、日本にとって大きな転換点（ターニングポイント）が到来していることに気付かれます。

その転換点の一つは、日本の社会や経済の転換点です。日本の人口は有史以来増えつづけてきました。関ヶ原の戦いがあつた西暦1600年頃にくらべ、今やその10倍の人口になりました。

私の年代は団塊の世代と呼ばれ、多くの仲間とともに、戦後の大変貧しい時代に生まれ、激しい競争社会の中を歩んできました。

ただ当時のこどもたちには、夢と希望があり、その目はキラキラと輝いていたように思います。人口も物価も右肩上がり、経済は常に発展し、来年は今年よりいつも豊かでありました。働く努力は報わ

れ、テレビ、車、家など欲しいものが次々と手に入り、明るい家庭が築かれていきました。世界の国々との競争にも勝ち抜いてきました。

しかし、その常識とも言えることが、ことごとく変化をはじめました。人口は減少に転じ、物価はデフレで低下し、土地や資産価値は下がり、給料も下がる時代となってきました。来年が今年よりも豊かであるという保障はどこにもありません。世界の国々の中で、ぐんぐんと頭角を表してきた日本も、少子高齢化や円高の影響で、他の国々に豊かさや競争力で抜き去られる時代となっています。

これからは、この転換点を迎えて、どのような社会をつくってゆくのか。どうすれば日本人が自らを幸せと感じら

れる社会ができるのか。どうすれば世界の国々から好感をもつて見られる国がつけられるのか。わたしたち日本人の価値が問われる新たな時代が到来しています。

もう一つの転換点は、阪神淡路大震災以来、災害が多発する時代に入ったのではないかとことです。最近100年あまりは、伊勢湾台風などはあつたものの、昨年の大津波のような大災害はありませんでした。今後は東海・東南海などの連動型大地震や東京直下型地震が予想されています。また昨年の台風12号や15号に見られるように、地球温暖化の影響と思われる、今までにない激しい雨が降るようになってきたと感じています。

市民の防災意識も大震災以来、非常に高くなっています。行政においても、県も市も防災のための予算に重点がおかれるようになっていきます。みんなで命を守るための意識向上をはかってゆかねばと思います。

わたしがあげた二つの転換点、みなさんはどう考えられるでしょうか。

木田市長の



vol.75

日本の転換点

人権文化の花を咲かせよう

Vol.116

身近なところから

「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」

これは、日本国憲法第14条の条文です。

しかし、わたしたちのまわりには、いまだ差別意識や偏見が根強く残り、こどもや女性、高齢者に対する虐待、障がい者に対する偏見、同和問題など、さまざまな人権問題が起こっているのが現状です。

人権が尊重される社会を創るためには、まずわたしたち一人ひとりがこの憲法を守り、人権感覚を身につけていかなければなりません。そのためには、人権問題をどこか遠くの話としてではなく、自分のこととして考えることが大切です。

ふとした時に、立ち止まり、自分自身のものの見方や考え方が、誰かの心を傷つけていないか？そう問い直してみることが、人権意識を身に付ける第一歩だと思います。

「人権」とは、誰もが生まれながらに持っている権利で、人が幸せに生きていくために必要な権利です。人が生きていく、という当たり前の権利は、誰からも侵されることはありません。

あなたは知らず知らずの内に、誰かを傷つけてしまっていないませんか？

まずは身近なところから、振り返ってみましょう。

